

こんなところにとらぶるの芽 (No.12)

～ちょっと気になる消費者情報をお届けします～

電気ケトルによる乳幼児のやけどが多発しています！



電気ケトルは、電気によってお湯をわかす「電気式のやかん」です。少量のお湯を早く沸かす場合に便利ですが、乳幼児が電気ケトルを倒してやけどする事故が起きています。乳幼児は、大人に比べて皮膚が薄いので、深いやけどになりやすく、重大事故になる危険があります。

電気ケトルではなぜやけどの事故が多いのか…？

- 持ち運びしやすいデザインの電気ケトルは、電気ポットなどに比べて、安定性に劣り、倒れやすいものが多い
- 電気ケトルの多くは、保温機能がなく、中には断熱性がないため、外部が高温になる製品もある
- 電気ケトルは、倒れたときにお湯をこぼれにくくする機能がないものがある。保温を目的とする電気ポットは、倒れたときのお湯の量が50ミリリットル以下になるよう規制されている（JIS規格）



電気ケトルでは、使う分だけお湯を沸かし、使用した後は残ったお湯を捨て、電源を切りましょう。



<ここに気をつけよう>

- ★ お湯漏れ防止機能(給湯ロック)がついている場合は、お湯を注ぐ時以外は給湯ロックを使用する
- ★ 乳幼児の手が届くおそれがある「床」、「低いテーブル」、「テーブルの端」には置かない
- ★ コードを引っ掛けないよう、高い位置のコンセントにつなげる
- ★ 乳幼児や高齢者がいる家庭では、購入時に安全性に関する機能を確認し、慎重に選ぶ

【電気ケトルに関する情報は下記のホームページでご覧になれます】

国民生活センター

電気ケトルの転倒等による乳幼児の熱傷事故にご注意ください

http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20121128_1.html